



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年5月15日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の業績 (2026年1月1日～2026年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	3,821	10.7	89	—	93	—	63	—
2025年12月期第1四半期	3,453	△2.9	△24	—	△20	—	△42	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	1.04	—
2025年12月期第1四半期	△0.71	—

- (注) 1. 2025年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在しているものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
 2. 2026年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	5,953	3,469	58.2
2025年12月期	5,977	3,417	57.1

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 3,465百万円 2025年12月期 3,413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の業績予想 (2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	7,493	6.5	△48	—	△36	—	△73	—	△1.19
通期	15,548	6.8	101	137.7	123	175.5	50	—	0.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期 1 Q	61,424,000株	2025年12月期	61,424,000株
② 期末自己株式数	2026年12月期 1 Q	220株	2025年12月期	220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期 1 Q	61,423,780株	2025年12月期 1 Q	59,668,738株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 経営成績等の概況 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6
(重要な後発事象)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかに回復し、春闘への賃上げ期待から個人消費も底堅く推移しておりましたが、後半以降の中東情勢緊迫化の影響により、資源価格の急騰や円安進行、輸入物価の上昇などから先行きが不透明な状況です。外食産業におきましては、人流回復とインバウンド効果により堅調に推移しながらも、資源高や深刻な人手不足に伴う労務費の上昇などにより、厳しい環境が続いております。

こうした状況のもと、当社は新たな「中期経営計画」を策定し、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、既存店舗のDX化の推進、東南アジアを中心とした海外展開、事業柱の育成に注力しました。

既存店の売上対策が奏功したことなどから、いきなり！ステーキ事業のセグメント利益は前年同期に比べ大幅に改善しております。同事業が全社業績を牽引した結果、全社利益項目において黒字を達成いたしました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,821百万円(前年同期比10.7%増)、営業利益は89百万円(前年同期は24百万円の営業損失)、経常利益は93百万円(前年同期は20百万円の経常損失)、四半期純利益は63百万円(前年同期は42百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

①いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行うとともに、期間限定の魅力ある商品を打ち出し、お客様数の増加に努めてまいりました。

商品キャンペーンといたしましては、1月20日より『カインノミステーキ』、3月17日より『ブレードミートステーキ』などの希少部位を期間限定で販売いたしました。

アプリ会員様向けの施策といたしましては、1月15日より株式会社セガが手掛ける人気ゲーム『龍が如く極3/龍が如く3外伝 Dark Ties』とのコラボ企画を開催いたしました。また、海外出店においては、2月28日にインドネシア6号店目となる『Ikinari Steak One Satrio店』をオープンいたしました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,612百万円(前年同期比9.2%増)、セグメント利益は428百万円(前年同期比43.7%増)となりました。

②レストラン事業

レストラン事業につきましては、『炭焼ステーキくに』『かつき亭』『すきはな』にて、季節限定メニューの販売やコースメニューを導入し、売上及び利益向上に努めました。また『かいり』では、メディアへの露出やSNSを活用し、ブランド認知向上及び顧客基盤の構築に注力しました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は195百万円(前年同期比46.2%増)、セグメント損失は11百万円(前年同期は0百万円のセグメント損失)となりました。

③商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は12百万円(前年同期比4.7%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期は0百万円のセグメント損失)となりました。

④その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発、店舗サポート、事業開発及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は1百万円(前年同期は0百万円)、セグメント損失は30百万円(前年同期は38百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期会計期間末の資産合計は、5,953百万円となり、前事業年度末に比べて23百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が84百万円増加したこと、未収入金(流動資産・その他)が75百万円減少したこと及び建物等が28百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債合計は、2,484百万円となり、前事業年度末に比べて75百万円減少いたしました。これは主に、未払金が41百万円減少したこと及び未払法人税等が47百万円減少したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、3,469百万円となり、前事業年度末に比べて52百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益を63百万円計上したことによるものです。また、2026年3月26日開催の第41期定時株主総会の決議に基づき、その他資本剰余金を85百万円減少し、同額を繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行っております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月13日付「2025年12月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,995	2,080
売掛金	660	665
商品	151	142
貯蔵品	30	29
その他	578	479
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,385	3,366
固定資産		
有形固定資産		
建物	608	580
その他	239	273
有形固定資産合計	848	853
無形固定資産		
のれん	177	171
その他	84	93
無形固定資産合計	261	264
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,120	1,121
繰延税金資産	58	58
その他	312	300
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	1,481	1,470
固定資産合計	2,591	2,587
資産合計	5,977	5,953

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	819	833
未払金	280	238
未払法人税等	62	15
契約負債	24	20
賞与引当金	—	19
資産除去債務	21	8
株主優待引当金	86	72
債務保証損失引当金	68	69
事業構造改善引当金	1	1
その他	424	442
流動負債合計	1,787	1,722
固定負債		
長期契約負債	37	36
資産除去債務	405	412
事業構造改善引当金	2	2
その他	325	310
固定負債合計	771	762
負債合計	2,559	2,484
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	10
資本剰余金	3,461	3,375
利益剰余金	△85	63
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,385	3,449
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28	16
評価・換算差額等合計	28	16
新株予約権	4	4
純資産合計	3,417	3,469
負債純資産合計	5,977	5,953

(2) 四半期損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	3,453	3,821
売上原価	1,393	1,546
売上総利益	2,059	2,275
販売費及び一般管理費	2,084	2,185
営業利益又は営業損失(△)	△24	89
営業外収益		
受取利息	0	0
協賛金収入	3	1
受取補償金	1	3
その他	5	2
営業外収益合計	10	7
営業外費用		
支払利息	0	0
支払保証料	6	—
為替差損	—	1
盗難損失	—	0
支払補償費	—	1
その他	0	0
営業外費用合計	6	3
経常利益又は経常損失(△)	△20	93
特別損失		
固定資産除却損	0	0
減損損失	2	13
特別損失合計	2	13
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△23	80
法人税、住民税及び事業税	18	17
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	18	17
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42	63

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年3月26日開催の第41期定時株主総会決議により、同日付で会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金85百万円を繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行っております。この結果、当第1四半期累計期間において、その他資本剰余金が85百万円減少し、繰越利益剰余金が85百万円増加しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	41百万円	48百万円
のれん償却額	2	6

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,307	133	12	0	3,453	—	3,453
計	3,307	133	12	0	3,453	—	3,453
セグメント利益 又は損失(△)	298	△0	△0	△38	258	△282	△24

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、事業開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△282百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

(単位：百万円)

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	2	—	—	—	2	2

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期累計期間において、事業の譲受により、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、195百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,612	195	12	1	3,821	—	3,821
計	3,612	195	12	1	3,821	—	3,821
セグメント利益 又は損失(△)	428	△11	△0	△30	386	△297	89

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、事業開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△297百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

(単位：百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	13	—	—	—	13	13

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。